

令和7年度 南紀熊野ジオパーク探偵団

「紀伊半島の森林の生態系を考える」の参加者募集

南紀熊野ジオパーク探偵団ってなんだろう？

<目的> 南紀熊野ジオパークをフィールドとした「探究活動」を通じて得る新たな気づきをもとに、「think locally, act globally」（地域で考え、地球規模で行動）の視点に立って、地元にある社会的な課題の解決と未来に向けて考える人材を育てていきます。

<対象> 自然や環境に関心がある中学生、高校生

<活動> 参加者は専門家の指導のもと「紀伊半島の森林の生態系を考える」のテーマに基づいて調査活動を行います。調査活動の前後には学習を行い、異なる学校の参加者同士で問題点を共有し、意見を出し合い、疑問点などを話し合います。これらの活動が終わった後、希望者は専門家の助言を受けながら、探究活動を行い、その結果を発表します。

<流れ> 事前学習 → 調査活動 → 事後学習 → 希望者は探究活動 及び 発表



活動は発表まで全部参加しないといけないのですか？

調査活動と事前・事後の学習は、原則セットで参加してね。
応用編の「探究活動」は、頑張ってチャレンジしてみよう！



昨年度の現地調査活動を紹介！！



古座川町の北海道大学和歌山研究林にて、専門家の指導のもとに終日、活動を行いました。午前中は、研究林内を歩きながら、土砂崩れ現場の観察や動植物の観察を行いました。また、午後からは天然林と人工林に入り、それぞれの違いを観察するとともに、植物の種類を学んだり、川に住む生物の調査を行いました。





「紀伊半島の森林の生態系を考える」の活動計画



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

15 陸の豊かさも
守ろう



森林は、二酸化炭素を吸収したり、多様な動植物を育むなど私たちに様々な恩恵をもたらしています。しかし、世界では、1000 万ヘクタール（北海道面積の約 1.2 倍に相当）の森林が毎年破壊され、約 4 万種が今後数十年で絶滅の危機に瀕すると報告されています*。

一方、江戸時代に紀州藩では、「^{とめやま}留山」という制度を定め、森林資源の保護や土砂災害の防止が必要な場所での樹木の伐採などを禁じていました。現代でも、和歌山県では、先人の知恵にならい、貴重な自然生態系を支える森林を「新紀州御留林（しんきしゅうおとめりん）」として公有林化し永続的に保護しています。

本テーマでは、南紀の里山と奥山に足を運び、この地域の森林現状を知るとともに、森林生態系に住む生き物の調査方法についても学び、その特徴や機能について考察します。

◆活動日程等

日程	内容	
9月17日（水） 15:40～17:40	事前学習 （オンライン）	本年度の活動概要と問題意識を共有します。
9月21日（日） 9:00～16:00	現地調査活動	古座川町の北海道大学和歌山研究林にて、天然林を構成する樹木の特徴を学んだ後、動植物の観察を行います。 （定員30名程度） 予備日：10月25日（土）
参加者と調整	事後学習 （オンライン）	調査結果の報告と課題の共有、意見交換をします。
活動後随時	探究活動	専門家の助言を受けながら、更に調査・分析・考察を進めます（希望者）。
令和8年 2月頃（予定）	活動発表会	探究活動の成果を発表し、専門家の評価を受けることで、新たな気づきを得ます。

※なお、締切日は9月4日（木）までです。興味がある方はぜひご参加ください。

主催：南紀熊野ジオパーク推進協議会（和歌山県立南紀熊野ジオパークセンター内）